

## 幼児発達チェックシートの記入について

### 【使用方法】

1. 言語・身体・コミュニケーション・社会性の各項目、あるいは必要な項目でチェックし、発達水準を把握する。
2. 4つの各領域について、一番下の項目から検査年齢までの全てについて、ア・イ・ウの3段階の観点でチェックし、気になる行動の見極めに使用する。

### 【1の方法で使用する場合の記入要領】

- ①検査年齢を算出する。
- ②調べたい領域を言語・身体・コミュニケーション・社会性の中から選びチェックし、上限項目から発達水準を把握する。
- ③未発達な部分については、チェック項目の記述を参考にして支援する。

### 【2の方法で使用する場合の記入要領】

- ①検査年齢を算出する。(例：4歳1ヶ月の場合は4：0～4：3の枠を見る)
- ②一番下の年齢項目（2歳0ヶ月）から検査年齢までの項目を全てチェックする。  
チェックの評価基準は以下に記すア・イ・ウの3段階とする。  
ア：無関心または指示や援助をしてもできない  
イ：指示や援助があればできる  
ウ：自主的または一人でできる
- ③各領域でチェックした項目数の内、＜ウ：自主的または一人でできる＞にチェックした数の割合を算出し、全体の3分の1以上かどうかによって支援方針を検討する。

記入例：4歳7ヶ月児（年中）

☆＜ウ：自主的または一人でできる＞のチェック数7個

☆2歳0ヶ月～4歳7ヶ月までのチェック項目は1領域につき12個

☆＜ウ：自主的または一人でできる＞の割合は3分の1以上なので評価のめやすの表記を参照する

- ④評価のめやすを参照して適切な支援を行う。

### 【各領域の評価のめやす】

＜ウ：自主的または一人でできる＞のチェック数の割合	評価コメント
チェック項目数の3分の1未満の場合	発達が多少気になります。 各種発達検査を実施したり、「不応の状態を把握するチェックシート」（別紙）等を利用して、より詳細な把握を行い、有効と思われる支援をしてください。 さらに、保護者の希望があれば専門機関の紹介をしましょう。
チェック項目数の3分の1以上ある場合	今のところ発達に問題はありません。 できる項目とできない項目の偏りに注意して、環境の整備、支援方法の工夫により経過を観察してください。 3ヶ月～6ヶ月後に再度チェックして、発達の進捗を把握してください。

注意事項 ◎本シートは実態の見極めのために使用し、必要に応じた支援を行うためのめやすとするものです。決して障がいの有無を判断したり、発達の度合いに優劣をつけたりするものではありません。